

パークフェンス

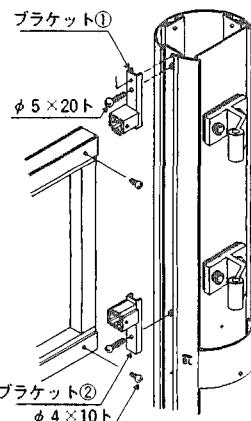
取説番号 ME-123

施工順序

(飾り間柱式)

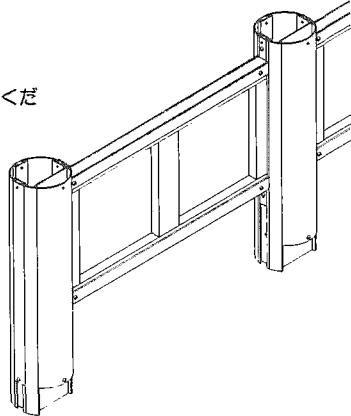
1 門柱部

- 柱間隔は中心から中心まで、2122mmです。
- フェンス本体にブラケットを込み、ビス(Φ4×10ト)で止めしてください。
- 標準丸門柱及び飾り間柱に取付けるときには必ずブラケット①を上に、ブラケット②を下にしてください。
- 図のように柱の溝にブラケットを入れ、ビス(Φ5×20ト)止めしてください。
- 使用しない溝には溝カバー材(小)を嵌込みビス止めしてください。



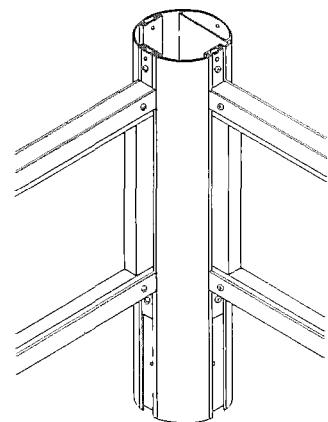
2 間柱部・端柱部

- 門柱部と同様に取付けてください。
- 溝カバー材(小)の取付は、門扉の欄(90頁)をご参照ください。
- 丸キャップの取付は、門扉の欄(90頁)をご参照ください。



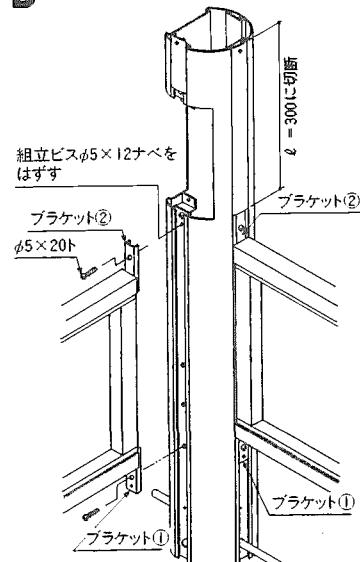
部分説明

A 角柱部(90°専用)



- コーナーが90°(直角)の場合のみ使用出来ます。出隅の別なく、フェンスの通りよく施工出来ます。

B インターホン用門柱



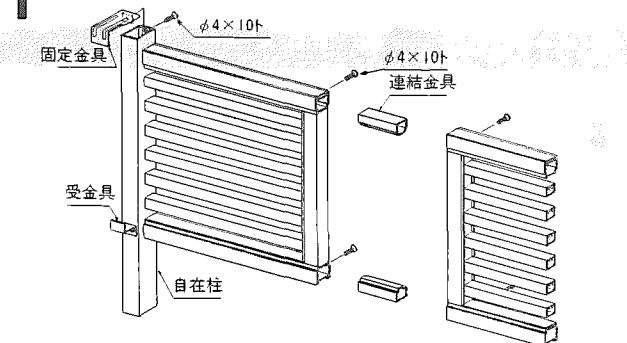
- インターホン用門柱にフェンスを取付ける場合は、ブラケット①を下に、ブラケット②を上にしてください。
- インターホン用門柱の正面に取付ける場合は組立ビス(Φ5×12ナベ)をはずして、そこにブラケットをビス(Φ5×20ト)で取付けてください。
- インターホン用門柱の側面・後面に取付ける場合、溝カバー材(小)を300mmに切断して嵌込んでください。

●パークフェンスC型は、風の強い場所では自在柱で柱間隔を1m毎に取り付けてください。

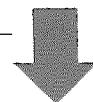
施工順序

(自在柱式)

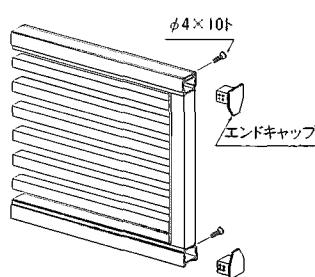
1 一般部



- 柱を2000mm以内の間隔で、ブロック穴に建て込んでください。(その場合、柱はフェンス本体連結部から200mm以内になるよう建て込んでください。)
- フェンス本体を連結部品で連結しながら受金具に乗せ、固定金具で柱とフェンス本体を固定してください。
- フェンスを組立てた後、フェンスの通りを確認し、柱をモルタルで固定してください。



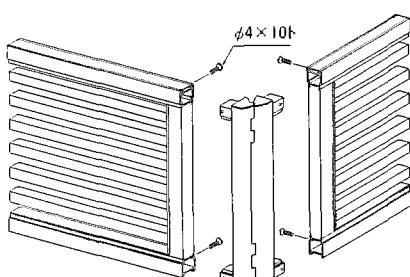
2 エンド部



- フェンス端部は、エンドキャップを取り付けてください。

部分説明

A コーナー部

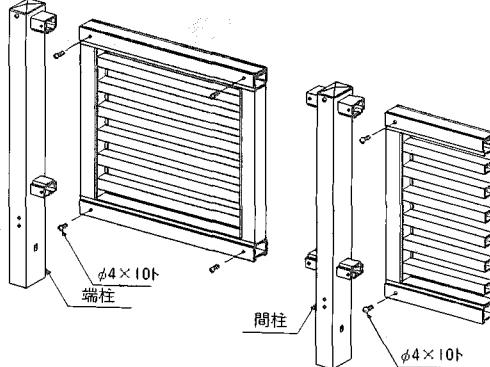


- コーナー部は柱2本建てとし、コーナー継手を取り付けてください。
- 角度可変範囲 60°～180°

施工順序

(間柱部)

1 間柱部・端柱部



(間柱部)

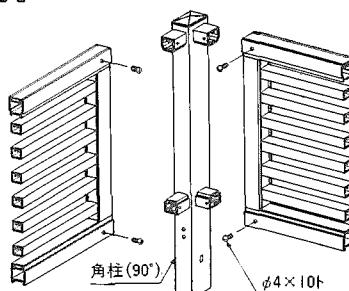
- 柱間の距離は、柱中心から中心まで2000mmです。
- フェンス本体を柱のプラケットに、ビス(φ4×10t)で止めてください。
- 1スパン組立てましたら、順次フェンスと柱を同じ要領で組立てます。
- フェンス全体を組立てた後、フェンスの通りを確認し、柱をモルタルで固定してください。

(端柱部)

- 端柱を使用してください。

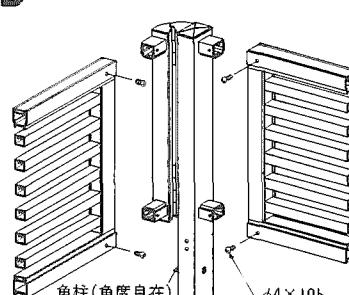
部分説明

A 角柱(90°専用)



- コーナーが90°の場合のみ使用できます。

B 角柱部(角度自在)

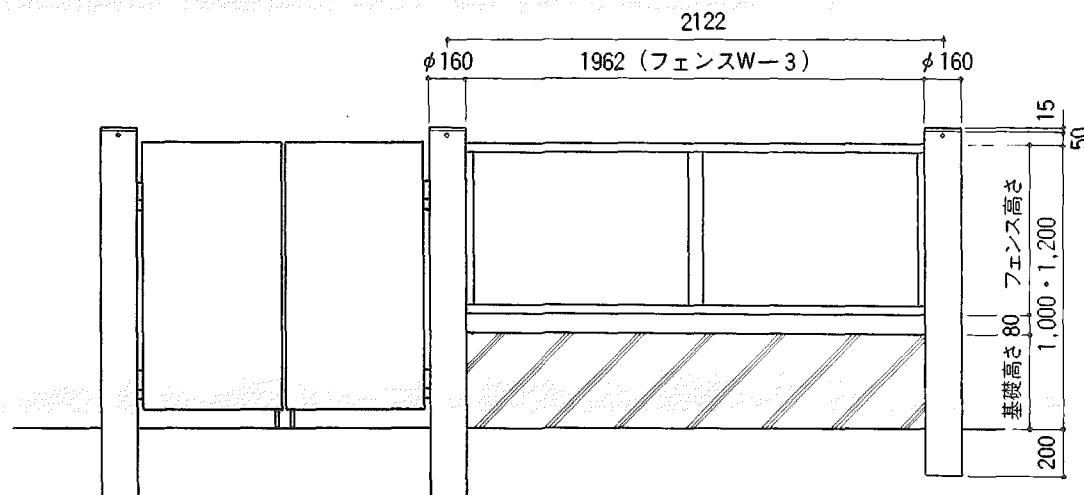


- 任意の角度(60°～180°)に使用できます。

●角度可変範囲
60°～180°

基本納まり図

飾り間柱式納まり図

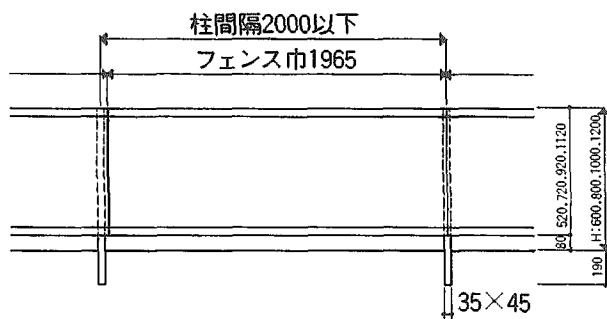


立上り基礎寸法表

門扉高さ	丸門柱 飾り丸柱	フェンス高さ	GLより基礎高さ
高:10タイプ	高:10用	920	0
		720	200
		520	400
		1120	0
高:12タイプ	高:12用	920	200
		720	400
		520	600

- 丸門柱はフェンスの柱共用です。
- フェンス用飾り丸柱には、高:1000と1200タイプがあります。
- 高:06・08のフェンスを付ける場合には、下部に立上り基礎が必要となります。

自在柱式納まり図



間柱式納まり図



フェンス

梱包内明細

名 称	梱 包 内 容	名 称	梱 包 内 容
フェンス	本体1枚、取付説明書	コーナー継手	コーナー継手1コ、取付ビス
飾り間柱	飾り間柱(溝カバー材(大)1本、溝カバー材(小)3本)、丸キャップ1コ、フェンス取付ブラケット4コ	エンドキャップ	エンドキャップ4コ、取付ビス
間柱・端柱 角柱(90°角度自在)	柱1本、取付ビス	別 売 品	フェンス取付用ブラケット ブラケット2コ、取付ビス
自在柱	柱1本、固定金具1コ、連結金具2コ、取付ビス	自 在 柱	自在柱に付いている連結部品の予備 連結部品2コ、取付ビス